

2023/11/18 (土)

皆さま

慶應の徳永です。先日の講習会でのスライドを PDF ファイルで共有いたします。

便利な YouTube 等のサイトにはリンクを張っております。

(一部、著作権の関係でこちらのファイルには含めていない画像もありますがご了承ください。)

また頂戴しました質問等について補足いたします。

・ Transkribus: <https://readcoop.eu/transkribus/>  
古典籍の画像転写ツールです。

・ Archetype: <https://github.com/kcl-ddh/digipal>  
画像にアノテーションができるツールです。  
(こちらはフリーですが使用するのには Transkribus よりも難しそうです)

・ 慶應義塾大学 無料オンライン講座 : <https://www.fl-keio.info/intro/>  
時間の関係で紹介できませんでしたが、慶應が制作した書物史のオンライン講座があります。

「旅する書物：日本とヨーロッパの歴史のなかで」<https://www.fl-keio.info/intro/?p=378>  
には一部私も出演しています。もしよろしかったらご登録ください。  
また上のコース以外にも和書関係も複数あります。

・ 手書き写本のメディアとしての特性

写本/manuscript は単語が示すように、手で書かれた・制作されたものです。

ひとつずつ人間の手によって書き入れられた文字や装飾によって、本として成り立つ写本のもつ独特のオーラはやはり印刷本とは決定的に異なるかと思えます。

(その合間にある 15 世紀刊本に、個人的には惹かれます。)

中世写本の魅力については、英米で多数の賞を受賞した次の本がおすすめです。

クリストファー・デ・ハメル『世界で最も美しい 12 の写本—『ケルズの書』から『カルミナ・ブラーナ』』

(ご紹介した『中世写本ができるまで』の著者です。ド・ハメルの方が発音は近いのですが…)

原著 : <https://www.penguinrandomhouse.com/books/316549/meetings-with-remarkable-manuscripts-by-christopher-de-hamel/>

ご参考になりましたら幸いです。

徳永聡子